

事務事業名		学力向上推進事業				<input checked="" type="checkbox"/> 事後(中間)評価対象事業				
総合計画	政策名	0:2: 豊かな人を育むまちづくり				所属課	学校教育課	担当	学校教育担当	
	施策名	0:1: 教育推進体制の充実				課長名	手塚 健一	担当者名	八木澤 孝行	
予算科目		会計	款	項	目	事業	事業コード名			
事業期間		<input type="checkbox"/> 単年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 平成28 年度)			<input type="checkbox"/> 期間限定 (年度~ 年度)			
事務事業の概要 (事務事業の内容を記載)		1 事務事業概要 全児童生徒を対象に、学力(基礎基本並びに活用力)や学習意識の傾向を把握し、より効果的な学習指導の方法を検討、実践することにより、総合的な学力向上を図る事業である。 2 概算事業費 1)総合学力調査(町独自の中間評価) 小1~中2 685人×350円×2教科=479,500円 2)学力向上サポート賃金 2名×1,300円×2h×年間35回×3小学校=546,000円 計 1,025,500円≒1,026千円								

(1) 事務事業の目的と指標		(4) 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)							
① 活動の計画(活動の量・大きさ・規模等) 総合学力調査(町独自の中間評価)の年間実施回数 小学校児童学力向上サポート回数		<table border="1"> <tr><th>名称</th><th>単位</th></tr> <tr><td>ア 実施回数</td><td>回</td></tr> <tr><td>イ 各校ごとのサポート回数</td><td>回</td></tr> </table>		名称	単位	ア 実施回数	回	イ 各校ごとのサポート回数	回
名称	単位								
ア 実施回数	回								
イ 各校ごとのサポート回数	回								
② 対象(事業は誰・何を対象にしているのかを記載) 在籍児童、生徒(小1~中2)		<table border="1"> <tr><th>名称</th><th>単位</th></tr> <tr><td>ア 在籍児童数</td><td>人</td></tr> <tr><td>イ 在籍生徒数</td><td>人</td></tr> </table>		名称	単位	ア 在籍児童数	人	イ 在籍生徒数	人
名称	単位								
ア 在籍児童数	人								
イ 在籍生徒数	人								
③ 目標(この事業によって、対象をどうしたいのか記載) 児童、生徒の学力の向上		<table border="1"> <tr><th>名称</th><th>単位</th></tr> <tr><td>ア 前年比向上率</td><td>ポイント</td></tr> <tr><td>イ</td><td></td></tr> </table>		名称	単位	ア 前年比向上率	ポイント	イ	
名称	単位								
ア 前年比向上率	ポイント								
イ									

(2) 指標・総事業費の推移		単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成32年度 総合計画 最終年度
活動指標	ア	目標値 回			1	1	1	1
	イ	実績値 回			1	1		
対象指標	ア	目標値 人	531	519	503	495	490	480
	イ	実績値 人	311	307	288	270	265	255
成果指標	ア	目標値 ポイント				1	1	1
	イ	実績値 ポイント				3		

計画		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成32年度	
事業費 投入量	国庫支出金	千円						
	県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円			1,100	1,100	1,100	1,100
	事業費計(A)	千円	0	0	1,100	1,100	1,100	1,100
人件費	正規職員従事人数	人			1	1	1	1
	延べ業務時間	時間			20	20	20	20
	人件費計(B)	千円	0	0	80	80	80	80
トータルコスト(A)+(B)		千円	0	0	1,180	1,180	1,180	1,180

実績		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成32年度	
事業費 投入量	国庫支出金	千円						
	県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円				189		
	一般財源	千円			1,105	985		
	事業費計(A)	千円	0	0	1,105	1,174	0	0
人件費	正規職員従事人数	人			1	1		
	延べ業務時間	時間			50	50		
	人件費計(B)	千円	0	0	200	200	0	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	0	0	1,305	1,374	0	0

評価項目	説明	事前評価結果	実施後の状況	事後評価結果
目的妥当性評価 ① 公共関与の妥当性 なぜこの事業を町が行わなければならないのですか？税金を投入して、達成するものですか？	町立学校の児童、生徒が対象	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり	全児童、生徒の学力把握に効果的であった。	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり
有効性評価 ② 着手・実施の必要性 この事務事業をなぜ着手・実施しなければならないのか？先延ばしにできない理由は何か？	学力の未定着な児童生徒が増加傾向にあるため、早急な対応が必要。	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり	児童生徒の意欲が向上し、学習への取り組む姿勢が高まった。	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり
効率性評価 ③ 総事業費の算定根拠 算定にあたってコスト削減策を考えたか？将来のコスト増要因に対して対策が考えられているか？	他の学力調査費用等を参考に算出。 2教科の実施は最低数と判断。	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり	国語、算数・数学は中核的な教科であり、最低限の教科として必要であった。	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり
公平性評価 ④ 受益と負担との関係 事業の内容は受益と負担との公平性が考慮されているか？	特定の児童、生徒を対象とせず、全ての学校、児童、生徒を対象としている	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり	受験期を控えた中学3年生以外を対象としており妥当である。	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し 余地あり

3 事前評価結果

事前評価日： 平成 28 年 1 月 4 日

(1) 事前評価者として判断した今後の事業の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 1次案のまま採択 <input type="checkbox"/> 下記条件で採択 <input type="checkbox"/> 不採択 <input type="checkbox"/> 差し戻し	
(2) 採択条件	(3) 指示事項(事務事業に関する指示、事後(中間)評価日程等)

4 成果検証

事後(中間)評価日： 平成 29 年 11 月 30 日

事務事業実施後の概要 (実施しての効果、受益者等の反応、問題点、課題等を記載)	<p>総合学力調査の効果は、児童生徒が年度末の総括の問題を解き、学校としても弱点へのフォローアップを行ったことで、特に基礎的・基本的な内容についての学力向上を図ることができたことである。結果として、県版テスト、全国版テストの基礎的・基本的な内容に関する数値に向上が見られた。学校の指導者からも、より多くの問題に触れることで、児童生徒の意識や意欲が増し、弱点克服のための働きかけにつながったとの意見が寄せられている。</p> <p>学力向上サポート事業(通称:ステップアップ学習塾)については、受講者全員が年間通して受講することができ、苦手克服に継続的に取り組んできた。児童生徒からも、できるようになったことへの喜びの声が数多く寄せられている。指導者からは、学校の授業とリンクして扱うことで、意欲が増した姿を見取ったり、支援に結びつけたりすることができたとの報告が寄せられている。</p> <p>これまでの取組に基づいた課題は、小学校での対象学年が限定されていたことといえる。今後は、ICTを活用するなどして、より多くのニーズに対応できるような方法を模索する必要がある。</p>
--	--

(1) 評価結果(今後の方向性) <input type="checkbox"/> 優(成果大) <input checked="" type="checkbox"/> 良(良好) <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可(成果なし・中止・計画変更必要)	
(2) 総評 一定の事業成果は得られたと判断できることから、引き続き事業を実施していく。	(3) 指示事項 <input type="checkbox"/> 再評価対象事業